



村に水が届いた！住民と感動を分かち合える瞬間です。(1998年モンゴカヨ村)



2015年10月25日発行

NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会

(英文名略称・HANDS)

本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11

TEL & FAX: 045-500-9151

E-mail: hands-mindanao@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/hands/>

郵便振替口座 00210-5-72693

(加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会

団体発足 20 年目の節目に当たり — 上半期を振り返って —

当会は今年の7月をもって20年目に入りました。2年半前には、33年間の活動を終えた「チボリ国際里親の会」(略称JOFPA)の一部会員を受け入れ、また、そのチボリ里子支援の活動を引き継いだことで、しばらくは、会員数急増や活動対象の拡大等の大きな変化に対応することになりました。会員管理などの事務作業量も増えましたが、会員の皆様のご理解、ご協力により、活動の質を落とすことなく、20年目の今年も、無事に下半期を迎えることができ感謝しています。

去る9月下旬に開催された拡大理事会では、上半期の振り返りとともに、この20周年を記念する事業についての意見交換を致しました。

ここで、少し、20年間の活動を振り返ってみたいと思います。

まず、教育面では、教室や学生寮建設等の施設面の支援や奨学金支給などにより、多くの子どもたちが就学の機会を得られる基盤が確立されました。また、高等教育を受けた子どもたちの一部は、社会の自治を担うまでに成長しています。

地域住民の要望に応えた医療の充実・生活改善・経済的自立・環境保全などの分野における多くのプロジェクトを実施し、住民の生活面・経済面の質の向上に取り組んできました。これにより、住民の生活意識の向上と自助努力による自立意欲も大いに高まってきています。

一方、上半期を終えた時点での27年度の事業ですが、これも、順調に実施されています。

まず、医療・衛生事業では、健康な村作りの一環として推進されているブラコン村の石鹸作りとその販売、各地区で進められている薬草や野菜作り、自家トイレの普及があります。

人材育成事業では、JOFPA 奨学金で学ぶ3名の看護学生が頑張っています。会員の岡山さん寄付による SCMSI カレッジ教室整備もまもなく完了します。

農村開発事業では、チボリ町スプ地区の継続事業であるアグロフォレストリーによるコーヒーの収穫と販売は今年も順調です。また、環境保全分野のタシマン村の森林農業とラムダラク村の生態系保全の事業もほぼ予定通り推移しています。

女性自立事業では、COWHEDのマニラでの販路拡大、ビラーンとムスリムの村トゥヤンの組織 MULANもバニグ編製品が町のイベントで賞をとる等、手仕事を生かした収入向上が認められます。

広報啓発事業では、役員、スタッフだけでなく、多くの会員やボランティアの皆様のご協力をいただき、ビラーン通信のほか、ホームページによる発信や報告会の開催、各種のイベントやフォーラムへの参加を積極的に進めています。一方、今後の活動をさらに強化継続するためには、若い会員の増強が課題とされます。会員の方々のご支援・ご協力をお願いします。

運営体制については、事務局スタッフとボランティアの協力体制が整い、今後はさらに充実した活動を進めることができると期待しています。

また、ミンダナオの治安状況については、当会の事業対象地域に関する限り、治安問題は起きておりません。役員やスタッフの現地事業モニターの折に、また、ご支援いただいた里子や奨学生が卒業する機会等に、現地を訪ねて、子どもたちや住民との交流の時を持っていただけたらと思います。

なお、来年の20周年行事について検討を進めるにあたり、会員の皆さんからのご提案をお待ちしています。
(副代表：河原)